

1. 指導内容(指導事項)を確認する

- ①本題材が、どの内容のまとまりに該当するかを確認
- ②指導内容と評価の観点との関連を確認

知識 技能 思考・判断・表現

「A表現」(1)ア(ア)

対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

「A表現」(2)ア(ア)

材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

「B鑑賞」(1)ア(ア)

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
イ造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

2. 題材の目標を設定する

- ①指導内容を基に題材の目標を作成(文末を「～させる」等指導者の立場で、題材に合った文言に変える等)



【知識及び技能】

- ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解させる。
- ・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すよう指導する。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練らせる。
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げさせる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、花の美しさや生命感などを基に楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組ませる。

3. 題材の評価規準を設定する(文末を「～している」や「～しようとしている」に変える)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>発 花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態① 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態② 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

生徒に資質・能力を確実に身に付させるために「指導内容」、「題材の目標」、「題材の評価規準」を一貫したものにします。

※ **発** 発想や構想に関する評価規準 **鑑** 鑑賞の能力に関する評価規準

4. 題材の指導と評価の計画を作成する (例) 中学校美術第1学年「花の命を感じて」

時	ねらい・学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	1. 発想や構想(3時間) ●作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。 ・「花」がテーマの作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、主題と表現の工夫との関係について考え、や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。 ●主題を生み出す。 ・花を選んだ理由を考え、花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことなどを言葉で書き表しながら、主題を生み出す。 ●主題を基に構想を練る。 ・主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。	知					【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】 【アイデアスケッチ】
2				発		態①	
3		知					
4	2. 制作(3時間) ●水彩絵の具の表し方を身に付ける。 ・形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、自己の構想に基づき、筆致や濃度などを変え、様々な表し方を試す。 ●発想や構想を基に自分の意図に合う表現方法を工夫して表す。 ・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。		技				【試作の作品】 【活動の様子】 【制作途中の作品】 【完成作品】
5				発		態①	
6			技				
7	3. 鑑賞(1時間) ●生徒作品や美術作品などから、他者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・お互いの完成作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。 ・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。				鑑	態②	【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】
					鑑	態②	

※ 児童の学習状況を把握して指導に生かす。 全員の学習状況を把握し、記録に残す。

5. 題材の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的にする 第3時の評価規準「知識」を例に

【知識】形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に美しさや生命感などを全体のイメージでとらえることを理解している。



具体的にする

題材の評価規準をそのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。



【知識】線の感じや色の感じ、光の当たり具合の違いなどによって心象が異なることや、様々な花が持つ造形的な特徴を基に、美しさや生命感など、作品の全体のイメージで捉えることを理解している。

【B生徒】

選んだ花をいろんな角度から観察したり、異なる場所に置いてみたりして画面全体の中の大きさや光の当たり具合による雰囲気の違いについて確かめながらスケッチしている。

【C生徒】

細部の形に着目してスケッチしている。消しては描きを繰り返している。

「努力を要する状況」と評価

「おおむね満足できる状況」と評価



OC生徒は、形や光の性質について知っていても発想したり構想を練ったりする際に活用することに困りを感じている可能性があります。ですから、適切な指導の手立てが必要なのです。

様々な角度や距離から花を観察させたり、花を異なる場所に置かせたりして花が見せる表情の違いを経験させる。